

トピックス

アクティブシニアの「生きがい」と「仕事」の関係について

2021年5月にWHOが発表した2021年度の「世界保健統計」(WHO加盟国194ヶ国と地域が対象)によると、日本人の平均寿命(男女平均)は84.3歳で、世界一の長寿国を維持しています。超高齢社会が進む中、健康で活動的な高齢者をいかに増やしていくかは大きな課題となっています。

本稿では、いわゆるアクティブシニアの思考や行動特性を紐解くために実施したアンケート調査の結果を踏まえて、社会全体でアクティブシニアを増やし、高齢者が生き生きと活動的に生きるためのポイントを考えます。

1. アクティブシニアとは

「アクティブシニア」について統一的な定義はありませんが、日本大百科全書によると「自分なりの価値観をもち、定年退職後にも、趣味やさまざまな活動に意欲的な、元気なシニア層」とされています。皆さんが語感から思い描く「アクティブシニア」のイメージも似たようなタイプの人々を指すのではないかと思います。

2. アンケート調査の目的と概要

今回は三菱総合研究所「生活者市場予測システム」を利用し、「アクティブシニアの思考および行動特性」を分析する目的で、全国の55～74歳の男女800名を対象にオンラインアンケート調査を行いました(実施時期:2020年12月23日～12月25日)。

アンケート調査対象者の基本属性は以下の通りです。

■年齢区分				■職業					■自己評価に基づく アクティブシニア度分布				
年齢区分	男性	女性	総計	職業	男性	女性	総計	割合	自己評価レベル	男性	女性	総計	高い ↑ ↓ 低い
55～59歳	100	100	200	会社員・団体職員	92	14	106	13%	10	3	9	12	
60～64歳	100	100	200	契約社員・派遣社員	43	6	49	6%	9	14	19	33	
65～69歳	100	100	200	パート・アルバイト	25	57	82	10%	8	47	54	101	
70～74歳	100	100	200	自営業・会社経営	50	17	67	8%	7	84	65	149	
総計	400	400	800	会社役員・団体役員	15	2	17	2%	6	85	71	156	
(単位:人)				公務員(教職員を含む)	11	5	16	2%	5	77	90	167	
				医療関係者(病院経営・開業医を含む)	3	2	5	1%	4	35	30	65	
				専業主婦/主夫	6	238	244	31%	3	33	38	71	
				無職(年金生活者を含む)/その他	155	59	214	27%	2	14	12	26	
				総計	400	400	800	100%	1	8	12	20	
									総計	400	400	800	

図1 アンケート調査対象者の基本属性

(出所:株式会社三菱総合研究所「生活者市場予測システム」(mif)を利用した弊社アンケート結果より作成)

今回のアンケート調査では、アクティブシニアの思考や行動特性を検証するため、まず回答者に「アクティブシニア度」を10段階で自己評価してもらったうえで(回答内訳は上図1右を参照)、男女・年齢区分などの切り口から分析を行いました。

3. アンケート調査の分析結果

(1) 「アクティブシニア度」と「生きがい」に関する分析

図2は、「生きがいを感じるのはどのような時ですか?」という質問への回答について、アクティブシニア度の自己評価によって2つのグループ(「8以上」と回答したアクティブシニア度が特に高い方と、「7以下」と回答した方)に分け、男女別、年齢区分別に順位づけをしたものです。

選択肢のうち「おいしいものを食べる」、「旅行をする」、「他人から感謝される」については、男女、年齢区分、アクティブシニア度により若干の差はあるものの、いずれの切り口でも上位にランキングされています。これらは人間にとってごく自然な欲求であり、「生きがい」だと感じる人が多いのは納得できる結果です。

一方、「仕事」に注目すると、特に就業している人が多い年齢層(55~64歳)では、「アクティブシニア度」が高い人のほうが、「仕事」の順位が高い傾向が見られます。この傾向は男女共通であり、仕事をする目的とやりがいがアクティブシニア度に影響していることが窺えます。

■ 「生きがい」を感じるのはどのような時ですか?								
年齢区分 順位	＜男性＞							
	アクティブシニア度を「7以下」と回答した方				アクティブシニア度を「8以上」と回答した方			
	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳
1位	おいしいもの	おいしいもの	おいしいもの	おいしいもの	旅行	旅行	旅行	旅行
2位	旅行	旅行	夫婦団らん	旅行	おいしいもの	他人から感謝	他人から感謝	おいしいもの
3位	趣味やスポーツ	他人から感謝	旅行	趣味やスポーツ	他人から感謝	おいしいもの	おいしいもの	趣味やスポーツ
4位	他人から感謝	趣味やスポーツ	他人から感謝	家族との団らん	趣味やスポーツ	趣味やスポーツ	趣味やスポーツ	夫婦団らん
5位	夫婦団らん	テレビやラジオ	趣味やスポーツ	夫婦団らん	夫婦団らん	夫婦団らん	勉強や教養	他人から感謝
6位	テレビやラジオ	夫婦団らん	家族との団らん	他人から感謝	勉強や教養	勉強や教養	夫婦団らん	家族との団らん
7位	勉強や教養	家族との団らん	勉強や教養	勉強や教養	仕事	仕事	ボランティア・地域活動	勉強や教養
8位	家族との団らん	勉強や教養	仕事	テレビやラジオ	家族との団らん	家族との団らん	仕事	ボランティア・地域活動
9位	仕事	仕事	テレビやラジオ	仕事	ボランティア・地域活動	ボランティア・地域活動	家族との団らん	仕事
10位	ボランティア・地域活動	ボランティア・地域活動	ボランティア・地域活動	ボランティア・地域活動	テレビやラジオ	テレビやラジオ	テレビやラジオ	テレビやラジオ
年齢区分 順位	＜女性＞							
	アクティブシニア度を「7以下」と回答した方				アクティブシニア度を「8以上」と回答した方			
	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳
1位	おいしいもの	おいしいもの	おいしいもの	おいしいもの	おいしいもの	他人から感謝	おいしいもの	おいしいもの
2位	他人から感謝	他人から感謝	他人から感謝	他人から感謝	他人から感謝	おいしいもの	他人から感謝	他人から感謝
3位	旅行	旅行	旅行	旅行	旅行	旅行	趣味やスポーツ	旅行
4位	テレビやラジオ	趣味やスポーツ	趣味やスポーツ	趣味やスポーツ	趣味やスポーツ	勉強や教養	旅行	趣味やスポーツ
5位	勉強や教養	家族との団らん	家族との団らん	夫婦団らん	勉強や教養	趣味やスポーツ	勉強や教養	勉強や教養
6位	趣味やスポーツ	勉強や教養	勉強や教養	勉強や教養	夫婦団らん	仕事	家族との団らん	家族との団らん
7位	夫婦団らん	テレビやラジオ	テレビやラジオ	家族との団らん	テレビやラジオ	家族との団らん	夫婦団らん	夫婦団らん
8位	家族との団らん	夫婦団らん	夫婦団らん	テレビやラジオ	仕事	夫婦団らん	テレビやラジオ	テレビやラジオ
9位	仕事	仕事	ボランティア・地域活動	ボランティア・地域活動	家族との団らん	テレビやラジオ	ボランティア・地域活動	ボランティア・地域活動
10位	ボランティア・地域活動	ボランティア・地域活動	仕事	仕事	ボランティア・地域活動	ボランティア・地域活動	仕事	仕事

図2 アクティブシニア度別「生きがい」のランキング

「生きがいを感じるのはどのような時ですか?」との設問に関する5段階の回答(あてはまる、ややあてはまる、どちらでもない、ややあてはまらない、あてはまらない)のうち、「あてはまる」と「ややあてはまる」の回答数を年齢区分ごとに集計したもの。

(出所:株式会社三菱総合研究所「生活者市場予測システム」(mif)を利用した弊社アンケート結果より作成)

超高齢社会で生産年齢人口が減少する中、今後ますます高齢者の労働力は重要なものになっていきます。「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」(高年齢者雇用安定法)の一部改正を受け、70歳までの雇用機会の確保の動きが進むと、高齢になっても働き続ける高齢者が増えるとともに、人生の中で「仕事」に対するウエイトが増すこととなります。

そこで、次項では、「アクティブシニア度」と「仕事をする目的」の関係について見ていきたいと思えます。

(2) 「アクティブシニア度」と「仕事をする目的」に関する分析

図3は、有職者を対象に、自己評価に基づく「アクティブシニア度」と「仕事をする目的」について、男女別に、アクティブシニア度の自己評価を8以上と回答した方と7以下と回答した方を比較したグラフです。

全体的にアクティブシニア度が高い人の方が回答数は多く、仕事に対して多くの目的を持っていることが分かります。特に「達成感や生きがいを感じるため」、「自分の存在価値を認めてもらうため」、「自分の能力を発揮するため」、「社会や人の役に立つため」などポジティブな目的は差が大きく、仕事に対してポジティブな目的を持っているか否かが、アクティブシニア度を高める要素の一つであることが示唆されます。

また、女性は一般的に世帯主ではない人が多いことから「家族を養うため」という目的は低い割合である一方で、自己評価の高い・低いに関わらずポジティブな目的を男性より多く持っていることが分かります。この結果から、女性の方が精神的な面での充実を求めて仕事をしているケースが多いのではないかと考えられます。

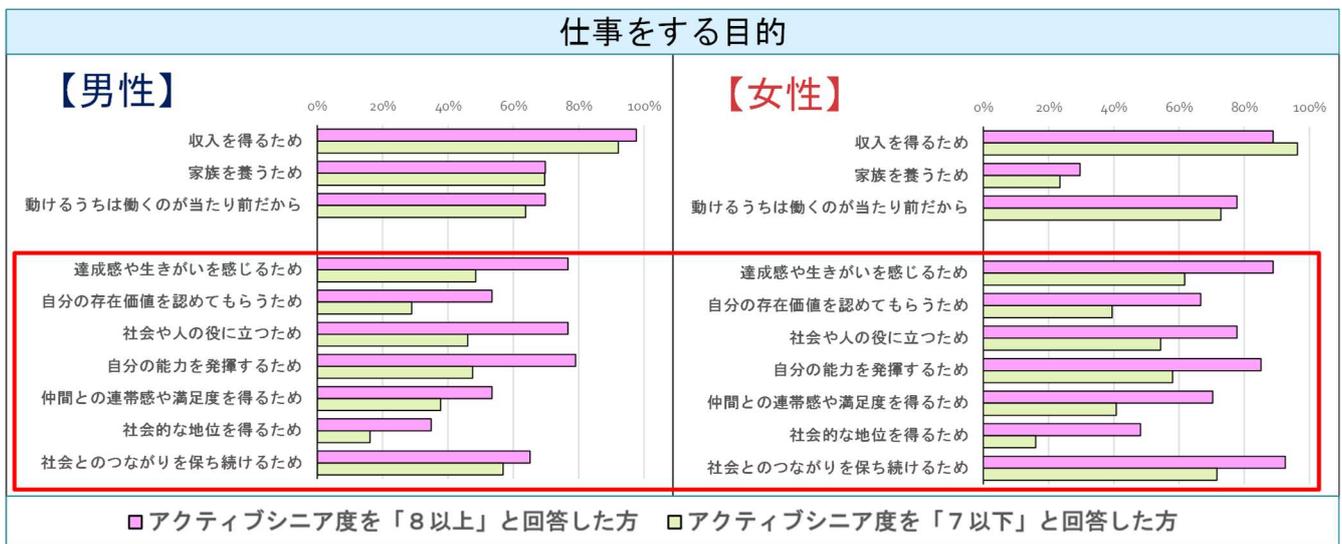


図3 アクティブシニア度別「仕事をする目的」の比較

(出所：株式会社三菱総合研究所「生活者市場予測システム」(mif)を利用した弊社アンケート結果より作成)

男性と女性の「仕事をする目的」の違いについて、次頁の図4で確認してみます。図4は「仕事をする目的」と「基本属性」の関係をもとにコレスポネンズ分析を行った結果です。コレスポネンズ分析では、近くにあるもの同士は関係が強く、遠くに離れているものは関係が弱いことを示しています。

「男性」は第Ⅳ象限(4区分の右下)に、「女性」は第Ⅱ象限(4区分の左上)と、離れた位置に出現していることから、男女で「仕事をする目的」が異なる傾向にあることが示されています。「女性」は「達成感や生きがいを感じるため」や「自分の存在価値を認めてもらうため」と同じ象限に位置しており、図3で確認した、女性のほうが「仕事をする目的」において精神面を重視している傾向が表れています。

また、年齢別にも特徴があり、50歳代は男性的な働き方、65~69歳および70~74歳になると徐々に社会貢献や仲間との連帯感などの近くに位置するようになり、年齢が上がるにつれて働く目的が変容している傾向が見て取れます。

この結果は、雇用側と被雇用者である高齢者が、ともにこのような傾向を理解したうえで、適材適所の働き方を指向していくことの重要性を示唆しています。

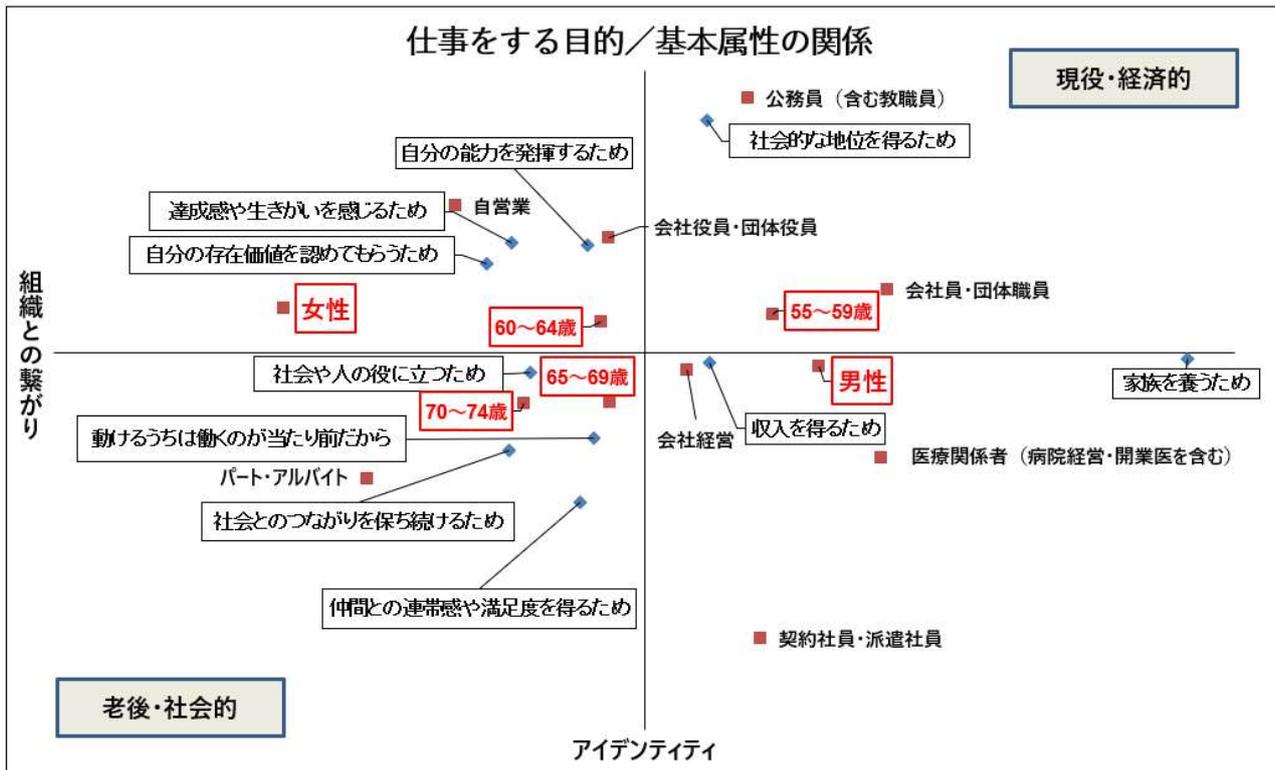


図4 「仕事をする目的」と「基本属性」の関係の分析
 (出所：株式会社三菱総合研究所「生活者市場予測システム」(mif)を利用した弊社アンケート結果より作成)

4. まとめ

本稿では、アクティブシニアの「生きがい」と「仕事」の関係に焦点を当て、アクティブシニア度や属性に応じた仕事の位置づけを分析してきました。

健康で活動的な高齢者、いわゆるアクティブシニアとして、人生の後半をより充実したものにするためにも生きがいを持つことは大切です。一方、我が国の高齢者の就業率は、欧米などの主要先進国と比較しても高い水準にあり、年々増加傾向にあります。仕事はアクティブシニア度を高める生きがいの一つとなり得るものであり、高齢者がポジティブな目的をもって仕事を続けることができれば、高齢者と社会の双方にとってWin-winの関係が成り立ちます。

高齢者がポジティブな目的を持って仕事ができる環境を整えていくことができるか、また、被雇用者自身も現役世代の間に仕事の目的や楽しさを如何に見出すことができるかが、日本の未来社会にとって重要な課題になると考えます。

以上